# 第五章　観　光

## 一　概　況

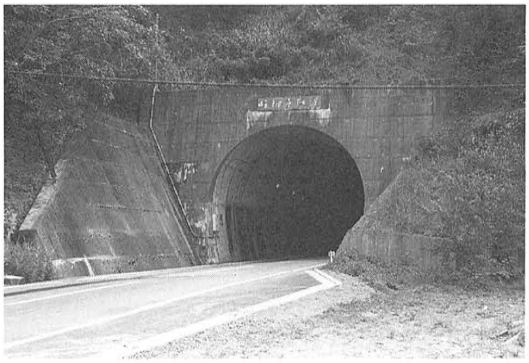
国定公園面河渓が、霊峰石鎚山の庭園のようなもので、町内に点在する幾多の観光資源もまた、面河渓の前庭のようなものである。また、郡内に散在する観光施設、四国カルストをはじめ八釜の甌穴群、美川スキー場、小田深山の渓流等々の開発が、久万町の今後の観光開発にも大きな影響力をもっている。このことは、郡内のどこの町村についても同じことがいえる。こうした事情をふまえて、昭和三〇年に上浮穴郡全域の観光開発を有機的に推進していこうと「大面河観光協会」が発足し、事務局を町村長会内に置いた。

豊かな自然と夏の涼しさから、久万町は「伊予の軽井沢」といわれるが、観光的には四国八八か寺の巡拝コースが主で、いわば通過型の観光であった。昭和三〇年代後半ごろから観光も様変わりし、滞在型のレジャー施設への要望が高くなり、四〇年代に入るとそうした施設の建設が急増しはじめ、それに伴って民宿もまた増加の傾向を示してきた。また、農林業のあり方も商業ベースにのる方向に向かっていった。

観光産業の発展はまず道路網である。国道三三号線は、昭和二七年一二月、一級国道に昇格し、数年後には全面的な改修工事が始められた。三九年四月、落合隧道が、四一年二月、久万町のバイパス開通とハイスピードで工事が進み、四二年八月には改修工事が完了した。国鉄は急行バスを運行するようになり、松山、高知間が三時間半に短縮された。

大野好隆が終戦後間もない昭和二二年に提唱した「峠御堂隧道（とうのみどうすいどう）」は、実現の方向に向かった。大野が初めて峠御堂隧道を提唱した当時は、「川瀬地域と久万を結ぶ最短距離として大事なものであり、産業・文化の発展に欠くことのできないもの」として唱えたのであった。が、時いまだ熟せず、単なる夢物語として、町民の冷笑をあびた。彼亡きあと、一〇年近くなった昭和三六年九月一三日に、峠御堂線の起工式が行われた。四六年一一月には、いよいよ峠御堂隧道の起工式が行われ、四九年一一月一二日、峠御道線の開通式が行われた。この路線の開通により、古岩屋の開発が、にわかに脚光を浴びることとなった。

国道三三号線の改修は、三坂峠を観光地としたと同じように、峠御堂線の開通は、名勝地として国の指定を受けていた（昭和一九年一一月七日指定）古岩屋を観光開発へと、大きく進展させた。



峠御道隧道

道路網が整備されるに伴って、町の基幹産業である農林業も大きく様変わりをしていった。三五年から久万郷の開田事業が検討されていたが、四〇年になると、いよいよ東明神地域の圃場整備事業が一〇月から始められ、四二年には畑野川地域、四四年

には上直瀬地域と、いずれも二か年の継続事業で行われた。また、林業の町として良材を産出している久万町に、木材市場ができ、その落成を祝う初市が四四年一〇月一日に行われた。その後、辻に営林署の直営市場と落合や野尻にも開設され、現在町内に四か所の木材市場があるまでになった。更に平成二年には、県の林業試験場が大字菅生、宮ノ前に開設され、林業の町にふさわしい施設と、町内外からあつい視線が注がれている。

標高七二〇㍍の三坂峠が、中央からの政治、経済、文化の移入に、大きな障碍となっており、伊予の北海道というあまりありがたくない異名で呼ばれてきた。標高五〇〇㍍の久万町は、平坦地の気温に比べると、五～一〇度の差があり、雨量も多い。冬の寒気は峻烈をきわめ、降雪は交通機関を麻痺させることもしばしばである。夏の冷気と冬の積雪は、自然の恵みであり、夏の避暑に冬のスキーにと、これまた大きな観光資源でもある。

こうした景観、概要の中から、更に景勝地や観光施設等に触れておく。

## 二　名　勝

### 1　三　坂　峠

旅人の歌のぼりゆく若葉かな

この句は、松山が生んだ俳聖正岡子規が、三坂峠に立って作ったものである。

標高七二〇㍍の三坂峠から眺める国立公園瀬戸内海の島々と、松山城を中心とした松山平野、遠くにかすんで見える中国山地の山々などは、旅人の旅情を慰め、旅の疲れを快くいやしてくれる。

この三坂峠は、藩政時代に要害の地として重要視されていた。松山藩では文久年間（一八六一～一八六四）、すなわち国論沸騰し、内外ともに多事多難のとき、台場を築き、六斤砲二門を備えつけた。慶応年間（一八六五～一八六八）に入ると、面河村の若山より産出した銅を使って、前よりも大きな砲二門を鋳造し、ここに備えつけたという。この三坂峠が敵からの侵略を防ぐために、いかにだいじな所であったかがうかがい知れる。

三坂峠からの景観を賞して有名無名の客が訪れている。記録によると政岡子規は明治一四年と二二年に訪れ、友人と共に漢詩を残しており、その詩碑が昭和三六年九月に建てられた。次はその碑文である。

○　三　坂　即　事

草履単衣斑竹杖
（草履　単衣　竹杖　斑なり）
孤村七月聴綿蛮
（孤村の七月　綿蛮を聴く）
青々稲長恵原里
（青々稲は長ず　恵原の里）
淡々雲懸三阪山
（淡々雲は懸る　三阪の山）

○　越　三　坂　嶺

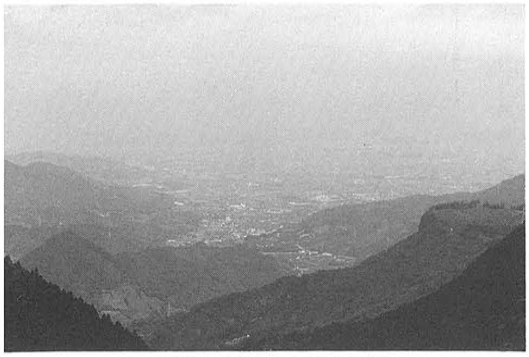
正岡子規の詩碑

三坂山頭凸又凹　　三坂山頭　凸また凹
層層雲霧掛松梢　　層々たる雲霧　松梢に掛る
寥寥市遠人行少　　寥々市遠く　人行少し
無奈山家乏美肴　　山家美肴に　乏しきをいかんせん

○　三　坂　望　松　山　城

欹危小径砲晨行
（欹危たる小径　晨を破って行く）
松樹蒲森絶世情
（松樹蒲森　絶世の情）
独停竹節回首望
（独り竹節を停め　首を回らして望めば）

山頭火の句碑



三坂峠から眺めた松山平野

白雲湧処是松城
（白雲湧く処　これ松城）

昭和五七年四月には、種田山頭火の句碑もできた。

正面　秋風あるいてもあるいても
側面　晴れたり曇ったり酔うたり覚めたり秋は行く

揮毫は、松山市の一草庵主、白扇がしている。

愛媛と高知を結ぶ重要な動脈として、国道三三号線が開通したのは明治二五年である。以来、その沿道はいろいろと変化を遂げてきた。高知までの長い道のりを、なんとか楽しんでもらおうと、沿線に桜を植えたりもした。特に昭和三五年には町当局の側面的な援助のもと、峠に有志の手でバンガローや展望台を作ったりした。三六年には「久万桜樹会」を組織して桜を植えたりもして、観光地としての足がかりを作った。

四一年七月、伊予鉄の手によって、三坂峠の町有地にドライブインが建設された。このことで三坂峠が観光地として、春の新緑、夏の納涼、秋の紅葉、冬の雪見と、四季を通じて観光客に楽しんでもらえることとなり、足を止める人も多くなった。

また、愛媛県は昭和四二年に、三坂峠を含めて「皿ヶ嶺連峰愛媛県立自然公園」の指定を行った。

### 2　皿ヶ嶺連峰県立自然公園

三坂峠から北東の方向にのびる連峰は、昭和四二年に愛媛県が、「皿ヶ嶺連峰愛媛県立自然公園」に指定した「皿ヶ嶺連峰」である。

温泉郡と上浮穴郡の境となっている山の陵線は、かっこうのハイキングコースである。特に中央に広がる丘陵は、なだらかな傾斜となってお

笛ケ滝公園のスキー場

笛ケ滝公園

り、皿ケ嶺キャンプ場（標高一二七一㍍）で、戦前は松山連隊の演習場として、またグライダーの発翔地として使用されていた。広大な熊笹の原は、夏季のキャンプだけでなく、冬季にはスキー場ともなる。

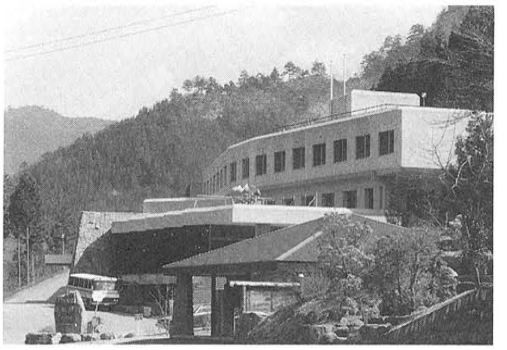
皿ケ嶺の頂上からは、松山平野や瀬戸内海の眺望だけでなく、霊峰石鎚をも眺めることができ、登山客も多い。

### 3　笛ケ滝公園

上野尻にある笛ケ滝公園は、明治三三年に設置されたようである。「その昔、公園の裏手に小さな滝があって、その滝のそばで、高貴なお方が笛の練習をしていた」という伝説的な言い伝があり、そのことからだれいうとなく、「笛ケ滝」という地名があった。その地名を公園の名にしたようだ。

通称「馬頭池」という農業用の溜池があり、その前面には数十本の老松がある。その中に桜やツツジ、白カバなどがあり、四季を通して町民憩の場となっている。夏は涼を求めてキャンプに来る客もあれば、冬は降雪時にスキーを楽しむ人もいる。グランドでソフトや野球、ゲートボールに、うち興ずる人もいる。夜間の照明設備も整っており、町外からの客も多い。

昔は、馬場があって草競馬も楽しめた。招魂堂という大きな建物もあった。桜のころに、このお堂で宴を開く人もいたが、終戦後にとり除けられ、現在のような姿に変貌した。



国民宿舎古岩屋荘

古岩屋の奇岩

### 4　古　岩　屋

峠御堂線が開通すると、久万から下畑野川、古岩屋、岩屋寺、面河渓へのルートが観光コースとして脚光を浴びることとなった。

古岩屋が名勝地として文部省より昭和一九年に指定を受けた。昭和三九年には県から「四国カルス

ト自然公園」の一角として指定も受けていた。こうしたことも含めて、古岩屋の開発診断が行われたり、調査検討を重ねた結果、総合的な開発として①昔からのへんろ道の整備、②嵯峨山の冷泉の活用と宿泊施設、③一遍上人遊行の地にちなむ環境整備、④宿泊客のまかないに地元特産品の活用等々が検討された。

まず手初めに、へんろ道を復活させて遊歩道を作ることから始めた。後日、環境庁や建設省の肝入りで「四国のみち」が開通するが、その際県下でいちばん最初に開通した原動力となった。冷泉のボーリング調査では、量と質の分析が行われた。その結果、アルカリ単純泉で、神経痛やリューウマチに効果のあることがわかった。

昭和四九年には、環境庁の認可を得て「国民宿舎古岩屋荘」（鉄筋コンクリート三階建）が建設されることになった。もともと国民宿舎は国が指定した自然公園の中でないと建設されないものである。窓の外には奇岩の岩肌が眺められ、ロビーの壁面には一遍上人遊行の絵巻物の一部を拡大したモザイクタイルの壁画がある。宿泊定員は一一六名で、和室大広間や会議室もある。またテニスコートやゲートボール場なども完備している。古岩屋荘の年度別利用客は次のとおりである。

| 年度 | 利用者人数 |
|---|---|
| 50 | 63,930 |
| 51 | 64,767 |
| 52 | 64,637 |
| 53 | 68,407 |
| 54 | 72,740 |
| 55 | 74,441 |
| 56 | 75,301 |
| 57 | 73,811 |
| 58 | 69,564 |
| 59 | 69,725 |
| 60 | 68,108 |
| 61 | 70,434 |
| 62 | 69,835 |
| 63 | 69,977 |

## 三　観光施設

### 1　ふるさと旅行村

農林省が進める農村整備事業の一環として、ふるさと旅行村が下畑野川に昭和五二年七月三〇日オープンした。この事業の中に「自然休養村事業」があり、その指定を四七年に受けて施工された。この事業は農林家の経営の向上と安定を図り、都市生活者に農林業の体験と休養の場を提供し、観光交流事業を進めることを目標にスタートした。

その後、農村地域農業構造改善事業や中規模レクリエーション地区整備事業を導入すると共に、町自身も単独事業で事業を行うなどして、次

ふるさと旅行村

第に拡大していった。

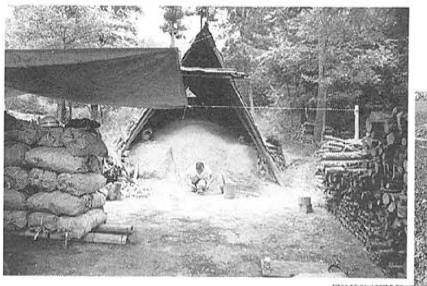
昭和五七年には運輸省の援助を得て「家族旅行村」が建設されるようになり、五九年七月二七日にオープンした。この家族旅行村は、バンガローのような宿泊施設と共に、大型テントによる「テント村」、その炊飯設備から総合的なレクリエーション施設までと、大規模な施設である。

ふるさと村が、この施設をもつことによって、古岩屋荘と共に、自然を生かした大型のレジャー施設ができた。

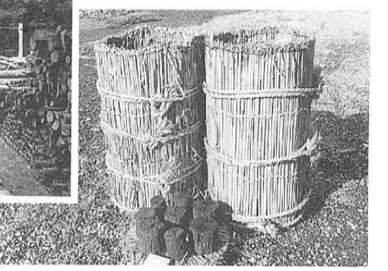
古い茅葺きの民家や土蔵、天井に絵馬を持つ辻堂、山村資料館には農林業の生活を浮き彫りにする資料が、三〇〇〇点を越える膨大なものが収納、展示されるなど、久万町の昔の人々の生活を偲ばせるものとなっている。

バンガローは木立ちの中にあり、一軒ずつ独立した家屋のようである。テントは二四張が夏の間、常設されており、家族ぐるみで楽しめるようになっている。いわば別荘気分が満喫できるというわけである。

食事は釣堀で釣った川魚、きのこ園で採ったシイタケを、炭がまで焼いて作った炭火で焼くなど、都会では味わうことのできない手料理が楽しめるというわけである。グランドでは各種のスポーツが楽しめるし、トリムコースも備えており、各種の観光イベントも用意されている。



炭焼きがま



炭俵と切り炭

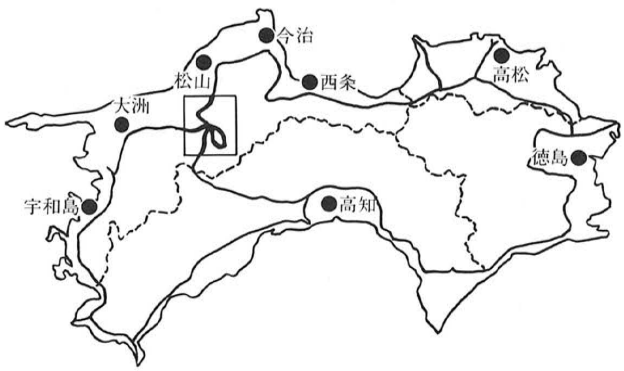
リンゴ園でリンゴ狩りを楽しむ家族づれ

リンゴ園は、シーズンになると「四国でリンゴ狩り」が楽しめるとは珍しいといって、多くの人でにぎわう。また、ぶどう狩りやなし狩り、いも掘りやとうきび狩りなども、ふるさと村の近くで楽しむことができる。

ふるさと旅行村の観光事業は、久万町に大きな波及効果をもたらした。「久万観光農業生産組合」や「久万高原観光リンゴ研究会」「久万高原木彫会」などと数多くの組織が結成され、活発に活動している。また都市部との交流も盛んになり、高知市との交流をはじめ、消費者団体との交流やふるさと農園の開設などと多彩なものがある。昭和五九年からは関東や関西の修学旅行生も受け入れている。

## 2　四国のみち

四国のみちというのは、昔から四国八八ケ寺を巡拝する「おへんろさん」が歩いていた道である。四国巡礼の道を環境庁と建設省の肝入りで、復活させたものだということがいえよう。復活させるといっても、車社




四国のみちの地図

会の波で廃止されたような山道であり、改修する人もなく、荒れるままにすておかれていた。それだけに復元には、多くの日数と経費を要した。久万町では大宝寺と岩屋寺とを結ぶ路線が五六年から整備されはじめ、五七年には開通した。へんろ道ばかりでなく、札所周辺の名所旧跡へ通ずる道も整備され、歩く楽しさが増していった。

### 3　観光リンゴ園

久万町にリンゴを栽植したのは、昭和三三年に、高知県の池川町より千本ケ原へ、竹森真一が苗木三〇本（阿波三号と早生旭の二種類）を持ち込んだことに始まる。竹森真一は高知県の池川町で二八年からリンゴの栽培をはじめたが、気候に適しないのか、とかくに思うような成果が得られなかった。いろいろと適地を探した結果、千本ケ原に目をつけた。

入植してリンゴの栽培をはじめたころは、久万でリンゴができたりするものかと、周囲の人々から冷たい目で見られていた。そのころ竹森の親戚が、土佐町でリンゴ栽培をしている伊藤という人物を紹介してきた。

早速出向いて指導を受けた。そのころ土佐町のリンゴ農家で、台風の関係からリンゴを断念しようとする人がいた。その木を譲り受け、これも千本へ植え付けた。四〇年ごろのことである。

以来、畑野川を中心にリンゴ栽培を志す人々が増え今日のように発展してきた。今では品種もずいぶんと改良され、喬木（きょうぼく）が矮化（わいか）性のものとなり、観光客がリンゴ狩りを楽しむに適した高さの木となっている。

リンゴ狩りを楽しむ親子

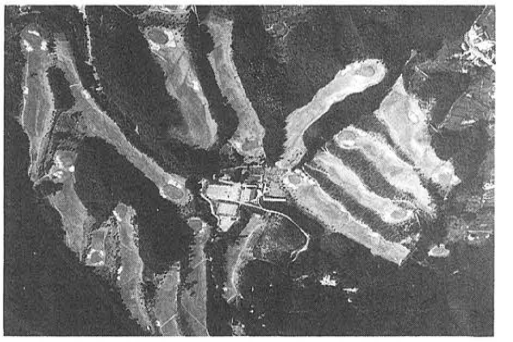
五八年にリンゴ研究会が発足し、会員も多く、栽培面積も全体で約一〇㌶にも及ぶまでとなった。竹森英輔は父の意志を受け継ぎ、リンゴジャムやスライスして乾燥させた「チップリンゴ」等々、久万町リンゴ農家の先頭に立って、リンゴ研究会をリードしている。

### 4　ゴルフ場

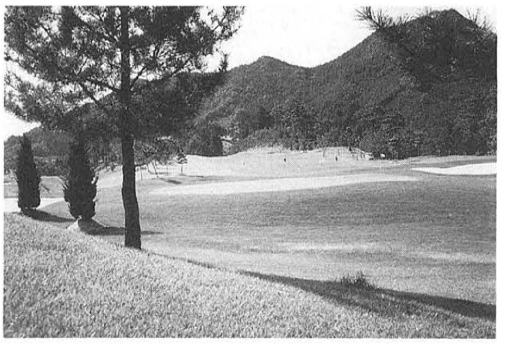
久万町にはゴルフ場が二か所ある。東明神の「久万カントリークラブ」と、下畑野川の「愛媛ハイランドゴルフ倶楽部」である。

久万カントリークラブは、協和観光株式会社が、ゴルフ専用のクラブとしてではなく、『輝く太陽のもと、家族そろって休暇を楽しむことの

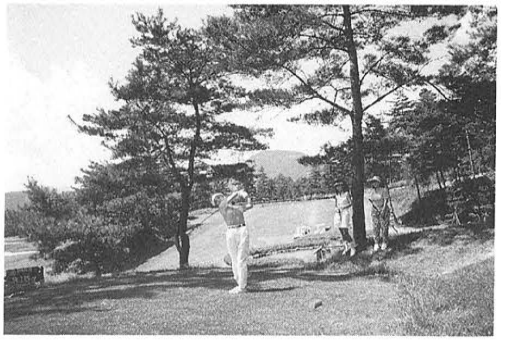
カントリークラブのゴルフ場



空から見たカントリークラブのゴルフコース



ハイランドゴルフ場



ハイランドでゴルフを楽しむ人々

できる、ジョイフルコミニティ《喜びあふれる広場》として、昭和四九年八月一一日に、東明神乙三三五番地にオープンさせたものである。

規模は一八ホール、パー七二、コースの全長が六三七〇ヤード（五八二五㍍）である。

家族そろって休暇を楽しむジョイフルコミニティーの目標に沿って、宿泊のできるロッジに。プールやテニスコートまでも備えている。また、昭和六〇年には結婚式や披露宴もできるチャペルが建てられた。

オープン当初は、東進理事長のねらいに、利用者の間では不満の声もあったようだ。が、最近はレジャーブームに乗って大衆の注目するところとなり、利用客が増加している。会員券も市中では六〇〇万円ぐらいしているらしい。県都に近いことと、地の利を生かした変化に富んだコースは、熊のシンボルマークと共に、多くの人々に親しまれている。

下畑野川に昭和四九年九月一五日、愛媛ハイランド開発株式会社の手でオープンした「愛媛ハイランドゴルフ倶楽部」は自然の美しさと空気が清浄なことが特色となっている。純然たるゴルフ場である。

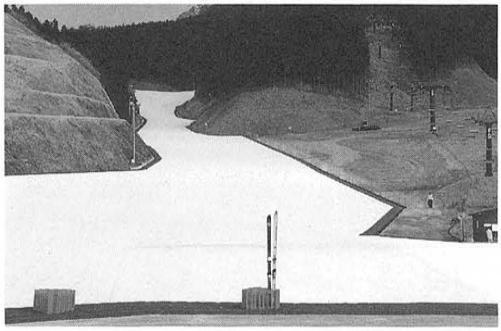
規模は一八ホール、パー七二、全長六四八〇ヤード（約五八九七㍍）コースの総面積は約一〇〇万平方㍍である。

近くに民宿が数軒あり、遠く県外からの利用客も多い。県外からの利用客は変化に富んだコースと共に、「空気が澄みきっていて美しい」とよろこばれている。会員の利用客でほとんど連日満杯の状態で予約ができないくらいである。

### 5　スキー場

上浮穴郡は四国の北海道といわれるように、冬季の積雪は相当なもの

スキー場



サマースキー場

である。ＪＲのバスが不通になることも珍しくはない。こうした自然条件を生かして、美川村に大川スキー場があり、小田町には小田深山スキー場がある。美川のスキー場は国体の会場ともなる本格的なものである。

久万町にも古くは三坂峠の近くに、小さなスキー場があった。（三坂峠に「四国スキー発祥の地」の記念碑がある）ミニであるところから、あまり発展しなかったために、植林されて消滅した。以来四〇数年を経過した昭和六〇年一二月に樅ノ木という所に「久万スキーランド」が誕生した。

久万スキーランドは、町有地に民間資本を導入して、全長約六〇〇㍍のコースをもつ、初心者用のミニスキー場である。最近は冬季の降雪が少ないのでスノーマシン（人口降雪機）を導入したり、サマースキーが楽しめるなどの工夫もしている。施設の概要は次のとおりである。

○スキー場の総面積　六ヘクタール
○スロープの長さ　六〇〇ｍ
○ペアーリフト　二基（四〇〇ｍ）
○ロープリフト　一基（五〇ｍ）
○スノーマシン　二一基
○圧雪車　一台
○スノーモービル　三台
○レンタルスキー　一〇〇〇台
○他にチビッコゲレンデや駐車場（八〇〇台駐車可能）、食堂（三〇〇人）等がある。また、ナイターの設備もあり、夜間も楽しめるようになっている。

6　美術館と久万公園は、六編の教育のところに記述しているので割愛する。

## 四　観光協会

久万町観光協会は、昭和六〇年の四月に発足した。郡に観光協会ができてから三〇年後ということになる。その間は久万町役場内の産業課がすべてを取り扱っており、会長も町長でやっていた。五九年ごろから、産業課が片手間でやるようでは、成果が上がりにくいという声が高くなり、遅まきながら、六〇年四月に発足した。

以来、魅力ある観光地づくりに、高岡晋作会長以下、懸命に取り組んでいる。もちろん産業課が永年取り組んでいたことを継承してのことである。

観光資源の開発や特産品づくり、販売ルートの確立、PR等々に、一二五名の会員の総意を結集しての取り組みである。経済問題や政局の問題等に、講師を招聘しての講演会をはじめ、木のフォーラム等を開催し、全国から多くの参会者を得るなど、多彩なイベントに活躍している。

また、今後の観光開発についての検討を行うと共に、先進国の視察や現地での研修会を開くなど、交流学習も強力に進めている。いろいろな活動を進めるなかで、宿泊部会と物産部会が生まれた。今後更に大きな発展を遂げるためには宣伝部会なども生まれるのではなかろうか。

## 五　イベント

### 1　ふるさと旅行村

久万町では、昭和四七年度に自然休養村事業の指定を受け、農山村のすぐれた自然環境の保全、農林家の経営安定向上を図るとともに、都市生活者に健康的な農業体験や休養の場を提供するリゾート空間の形成を目的として、民家の移築や山村歴史館、売店、体験実習館、釣堀、遊歩道など各種施設の整備を行ってきた。昭和五五年からは、更に家族旅行村整備事業を導入し、キャンプ場、ピクニック広場、ケビン等の整備を図り、都市住民との交流拠点づくりを進めてきた。その一環として、ふるさと村では、いろいろなイベントを企画、運営している。

#### ア　ふるさと村　子供まつり

昭和五五年から始めた子供まつりも今年で第九回を迎えた。毎年五月五日の子供の日に行われるこのお祭りは、松山、高知などから約二〇〇〇人の来村者でにぎわう。内容としては、なわとび競争、馬のひずめ競争、輪まわし競争、コマまわし競争、竹馬競争、もちつき大会など、いろいろな催しが毎年趣向を変えて行われている。

#### イ　ふるさと村　秋まつり

昭和五六年に始まったふるさと村秋まつりは、子供まつりとならんで、ふるさと村の二大イベントである。毎年一一月三日の文化の日に行われるこのお祭りは、収穫祭などの秋まつりを体験したことのない都市生活者などの来村者の方のために、おもちつき、みこしまつり、獅子舞など郷土芸能、竹とんぼやわらぞうりの手作り教室などが行われている。

### 2　納涼まつり

納涼まつりの始まりは、昭和三四年八月一〇日に、新しい久万町が誕生した祝賀で花火大会と、県警のブラスバンドの演奏会を開いたことにある。花火大会が恒例化してくると、それだけではどうも芸がなさ過ぎるということで、盆踊りを取り入れた。四八年になると阿波おどりをとり入れようということになり、徳島から指導者を招いて、踊りと共に鳴り物の指導も受けた。踊り子も職場ごとの連や各種団体の連ができ、商店街の七夕笹の下を練り踊るさまは、豪勢なものであった。商店街は各町内会ごとに、工夫を凝らした作り物があり、各戸の軒下になびく笹飾り

納涼祭ポスター

御用木まつり

は、久万町の一大風物詩の観を呈した。

五九年には、林業の町にふさわしいものを工夫しようと、御用木のかき比べが行われるようになった。御用木とは、今から三〇〇年ほどの昔、松山城の築城にあたり、久万からその用材を調達したという。その故事にちなみ、樹齢五〇年の杉丸太、長さ六㍍のものを、一チーム一一名の荒子（あらしこ）が肩にかついで町内を駆けぬけるのである。これに使われる用材を御用木という。沿道では清めの水を用意して、用材に掛ける。平成元年にはチビッコ達のオープン参加も含めて三九チームが参加した。もちろん町内だけでなく、郡内はもとより、松山市の方からの参加もある。

この御用木まつりと共に、踊りもよその物まねや借物でないものにしようと、新しく久万音頭が創作された。久万音頭の踊りは簡単な振り付けなのだが、平成元年の今年は、テンポを早めたり、サンバ風にアレンジした連もみられるようになってきた。

六〇年からは、三坂馬子唄の全国大会も加わった。三坂馬子唄というのは、久万郷の産物が一度久万に集められ、ここから馬の背で松山城下へと運ばれた。帰りには生活物資を運んで帰る。その道中で馬子が歌ったのが三坂馬子唄である。町内外から多くの民謡愛好家が集まり、盛況である。

花火に久万おどり、御用木に三坂馬子唄と、八月の第一土、日は久万町あげての盛大なまつりとなっている。町づくりに取り組む町民の意気込みを表す一大イベントである。

## 六　特　産　物（名産、土産物）

### 1　イヨスダレ

イヨスダレは、久万町露峰西野川に自生している天然記念物のイヨ竹を編んで作ったものである。平安時代には宮中の御簾（みす）として使われたという。ずいぶん昔から作られていたものである。（別項参照）

### 2　茶

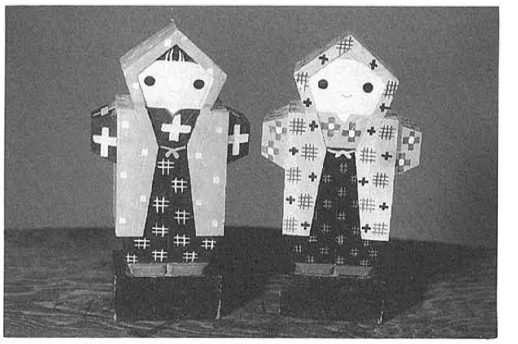
藩政時代から久万の特産品である。気候と土質に適しているので松山藩が奨励した。またこの茶の価格をめぐって百姓一揆が起きたこともある。町内では直瀬地域で、郡内では美川、面河に、甘味のある良質の茶が生産されている。

### 3　饅　頭

「おこう万寿」と「おこう饅頭」は、もともと同じ系列のものである。味も大差がない。「おもご饅頭」も同じだが、それぞれがその製法に多少の改善工夫を凝らし、独特のものとした。いずれも久万を代表する銘菓である。

### 4　でんこ人形

藤井潤二（当時久万中学校長）が、久万は林業の町でありながら、木材



でんこ人形

乾燥しいたけ

を使った特産品のないことを憂い、教職員と共に工夫を凝らして創作した。

ちゃんちゃんこ（通称でんち）を着てふところに手を入れた姿は、久万地方の冬の子供たちの姿そのものである。山の子の素朴な表情と愛らしい姿は郷土色ゆたかで、識者の間でも好評を得ており、昭和二九年には意匠登録も受けている。製造に時間がかかるため、量産できないのが悩みのたねである。それだけに手造りの良さもある。

### 5　椎　茸

椎茸はお茶とならんで古くから、少量ではあるが生産されていた。昭和三〇年代に入ると、木炭の需要が減ったので、その原木であるならやくぬぎを使って椎茸の栽培を始めたのである。年々栽培技術も向上し、生産組合もできた。生もいいが乾燥したものの方が風味豊かで、長期保存に耐えられると

磨き丸太

トマトの栽培

共に輸送にも便利である。

### 6　磨き丸太

久万の木材は自然環境に恵まれて、良質のものが生産される。人工林の造成と篤林家の努力で、建築用材として重宝がられている。

昭和四〇年ごろから、京都北山の磨き丸太の生産技術が導入され、無節（むぶし）の絞り丸太が床柱用として生産されるようになった。

絞り丸太には、天然のものと人工のものがあるが、いずれも市場で高値で取り引きされ、久万山の真価を高めている。

### 7　桃太郎トマト

昭和四五年、米作の減反政策が始まり、その転換作物としてトマトの栽培が始まった。トマトはもともと連作を嫌う作物だけに、土作りにはなみなみならぬ工夫と努力が重ねられた。化学肥料を使って栽培していた先進地が、久万のトマトは一〇年もすれば駄目にな

るといっていた。

一〇年を経過したころには、京阪神の市場で久万の桃太郎トマトは、高値で取り引きされるまでになった。一五年を経た昭和六〇年には売上げ額が五億円を突破した。平成元年には七億円となった。このむきだと一〇億円に達するのも夢ではない。

それも生産者の努力と研鑽の賜である。バーク堆肥と上直瀬にある肉牛繁殖センターの厩肥を利用しての土作り、更には生産技術の向上が、二〇年に近くなるトマト生産に、大きな成果を上げている。

国からの産地指定を受け、菅生にあるトマト選果場は、シーズン中、数十人のアルバイトを雇ってのフル操業と、うれしい悲鳴を上げるまでになっている。

### 8　ピーマン

減反の申し子はトマトだけではない。ピーマンもその一つである。ピーマンも嫌地性の作物で、金肥（化学肥料）だけで生産していたら、その生産力は次第に減退していったであろう。バーク堆肥や厩肥のおかげで、年々生産高が向上し、その売上げ額は二億円に達しようとしている。

国の産地指定と、生産者の肥培管理のよさが、ここまで高めていったものである。

ピーマンの栽培

### 9　大　根

終戦後日本復興の声が高まり、農林業にもその影響は大なるものがあった。

農業のあり方を考え、生産性を向上させ、食料不足を解消しようと、農村に「よんえっちクラブ」が組織された。食料不足が解消された後、農家収入の向上をめざした活動、農家の生活の安定をめざした活動が活発になった。なかでも下畑野川の四Hクラブの活動は活発で、換金作目をいろいろと試みた。その結果、大根に利の多いことがわかった。大根は魚料理に欠かせないものであるところから、高知県を主たる市場として出荷したところ、好評を得た。また、一年間に二度、三度の収穫を上げることができる。現在では農協を通じて出荷する人と、自分で青果市場へ運び込む人、また仲買業者に直接渡す人などさまざまだが、農協を通した人たちだけの売上げでも七〇〇〇万円を超している。大根生産者の総額は一億を越していると思われる。

大根畑

### 10　その他

○カンラン（キャベツ）は国からの産地指定を受けて、順調に伸びてはいるが、いま一歩である。高原野菜として、遠洋漁業に出る人たちには人気が

ある。

○ささゆりの香水やへちま水も若干伸びてきている。

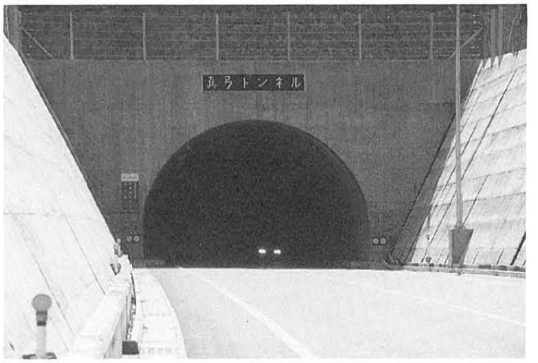
○木彫りの工芸品は一つ一つの手造りで量産できないところに難点がある。

○漬物は、久万山漬として人気はあるが、材料を生産する人たちが加工にまわしたがらないので、年間を通して需要に応えるというところまでには至っていない。

## 七　今後の課題

上浮穴郡は自然の変化に豊んだ美しいものは多いが、スケールが小さい。国道三三号線が改修されたとはいえ、全線二車線のようなもので、時間的な距離の問題は、今後の大きな課題である。また三八〇号線の真弓隧道が完成したとはいっても、三八〇号線全線が改修されてはいない。峠御道はできたが、それから先の岩屋寺、面河渓と結ぶ路線も全線二車線というわけではない。

瀬戸大橋が開通し、高松と高知を結ぶ自動車道ができ、高知へのお客が、むこうにうばわれ、三三号線を通るお客も減少している。




真弓隧道

滞在型のレジャー施設としてのラグビー場ができたといえども、小学生以下の子供たちに、魅力ある遊具が少ない。大型のドリームランドがほしい。

国定公園面河渓は、石鎚スカイラインとともにその観光的価値は高くなるであろう。また柳谷の四国カルストも世に出、数年を経ずして多くの観光客が訪れることになろう。久万町はふるさと村と古岩屋だけでなく、美川、面河、柳谷、小田深山への客足を、いかにしてとどめさせるか。文化的なものとしての美術館には、遠来の客があるけれども、いずれも通過型の客に過ぎない。ラグビー場は夏の間だけのもの。また、ラグビー場も一面だけでは、その将来性にも陰りが出はじめるだろう。スキー場にしても、その面積の拡大が望まれる。郡内の各町村と連携を密にし、おのおのがその特色を生かし、四季を通して楽しめる施設設備の完備が望まれる。